

科学よもやま話

佐藤 勝昭

第21回

2007年問題と技術・技能伝承

「団塊の世代」という言葉をご存知でしょうか。この言葉は作家で経済企画庁長官を経験された堺屋太一氏の同名の小説で使われたのが最初で、1947年から1949年生まれのいわゆる戦後ベビーブーマーのことを指しています。日本経済の高度成長を支えてきた「団塊の世代」が定年退職年齢に達し、退職ラッシュが始まるのが2007年なのです。

高度成長時代、資源のない日本は技術立国で生きるしかないと言われ、先端的な工業製品を次々と開発し世界に供給してきました。その「もの作り」の基本を支えてきたのが「団塊の世代」の技術者です。彼らが退職した後、どのようにすればその技術・技能を伝承していけるのでしょうか。

バブル崩壊後、企業は生き残りをかけて、徹底的な人減らしをするとともに、生産拠

点を海外にシフトしました。その結果、技術・技能が国内から海外に出てしまいました。また、ロボットの発達により技能労働が機械化されました。ロボットはいったん教えれば低コストで正確に技能労働をこなしますが、仕事の内容が変わったときに新たに技能を教え込む人がいなくてはなりません。また、メンテナンスも人間がしなければなりません。「団塊の世代」がいなくなるとこれらの技術・技能が消滅してしまいます。

ヨーロッパでは、いままもマイスターの制度が残っており、技術・技能が実務を通して伝承されるとともに、~~資格をとるための専門学校での教育を通じて~~継承されています。一方、日本の技能の多くは、現場において人から人へ「あうんの呼吸」で伝えられるノウハウ的なもので「暗黙知」でした。

これを今の若い世代に伝えるためには、いかに「形式知」に変えるかの工夫が重要だと北浦正行氏（生産性本部）は語っておられます*。最近になり、伝わりにくい「暗黙知」を映像型マニュアルとして残す試みも行われています[▲]。団塊の世代と若手の協力で2007年問題を克服し、我が国の技術・技能伝承を図りたいものです。

（東京農工大学 副学長）

* ビジネス・レーパー・トレンド2004年11号
[▲] 森 和夫「技術・技能伝承ハンドブック」
(2005)



ダイヤモンド研磨の技術を伝承する街ブルージュ（ベルギー） 佐藤 画